

教師海外研修 私の3枚

横浜市立中川小学校 縄田 英愛



「お絵かき」

ホームステイ先の子どもたちに、日本のキャラクターアンケートを行った後に画用紙を渡したらそれぞれ自分が選んだキャラクターを真似して描き始めました。

一生懸命にお手本を何度も見ながら描く子。クレヨンの色を試しに画用紙のはじに塗って、できるだけお手本に近い色を選ぼうとする子。うまく描けない妹の手伝いをしてあげるお兄ちゃん。

タンザニアのきょうだいたちの、いろいろな姿を見ることができました。



「日本→タンザニア」

クラスの子どもたちが、タンザニアの人たちに向けて作った「日本を紹介するカード」や

「おりがみ」を持って記念撮影。ひとつひとつの説明に熱心に耳を傾けてくれました。

「回転寿司」ってなんだろう???



「親戚めぐり」

お父さんと子どもたち+近所の子どもたちで、車に乗って親戚めぐりへ行きました。

みんなで連れ立ってのお出かけは、特に言葉を交わさないでも心が温まるものでした。

行く先々であいさつをして、握手をして、庭にある果物の木から実をもいで食べ、

にっこりと笑いあう、素敵な時間でした。

教師海外研修 私の3枚

藤沢市立秋葉台小学校 佐藤 大輔



「カリブ精神」

今回の研修では多くの出会いがありましたが、中でも印象に残っているのはホームステイでした。言葉が分からなくても温かく迎えてくださったご家族。タンザニアの家庭の生活を知ることのできた貴重な体験でした。日本に戻ってもタンザニアで学んだ、誰でも受け入れもてなす、カリブ(よろこ)精神を見習いたいと思いました。

「タンザニアの伝統布「カンガ」」



町の店先に並ぶカラフルな布。「カンガ」という名前のタンザニアの伝統的布です。タンザニアの女性はこの布を上手に組み合わせておしゃれを楽しんでいます。生活に欠かせない大切なものとして代々受け継がれているそうです。

「HANZINA YA NYUMBA NI UPENDO(家にとって大切なものは愛である)」など、多くのカンガには一枚一枚異なるメッセージがはいています。タンザニアの人々の心を感じることができます。

「日本とタンザニア」



キラカラ中等学校での交流の時間。教員である私にとって外国の教育現場を見て、生徒たちと触れ合うことは大変興味深い体験でした。日本文化を紹介し、カタカナ習字体験をしてもらいました。日本の子どもたちが作った折り紙で飾り付けをして完成。日本とタンザニアがつながった交流でした。日本の子どもたちにタンザニアやアフリカを身近に感じてほしいと思います。

教師海外研修 私の3枚

横浜市立共進中学校 中村 悠里



「ムトニ湧水にて」

ザンジバルでの2日間にわたるザンジバル水公社（ZAWA）施設の視察。水が各家庭に届くまでのプロセスを ZAWA 職員の苦勞と共に知ることができ、本当に貴重な経験となりました。現地スタッフが着ていたポロシャツにこのプロジェクトが象徴されていて、水の起点である湧水を見つめる後ろ姿が印象に残りました。



「朝の風景」

ホームステイ先の2日目、朝早く外に出ると食器洗いをする女性たちの姿がありました。バケツ一杯の水を大切に使って丁寧にすすいでいく作業に、思わず日本での自分の生活を振り返ってしまいました。箒で家中を掃く次女や、鶏の卵を取りにいく三女など、女性は子どもでも本当によく働いていました。聞けば毎朝の日課だそうです。



「笑顔」

キラカラ中等学校での見学では、いきいきと学校生活を送る生徒たちに出会うことができました。食堂の手伝いで野菜洗いをする彼女たち。案内してくれたクリストファー先生の呼びかけに見せた笑顔が日本の生徒たちと変わらず、どこか安心した気持ちもありました。

教師海外研修 私の3枚

川崎市立川崎中学校 小野 恵子



「ザンジバル」

飛行機から見たザンジバル島。ホームステイ先の人たちはどの辺にすんでいらっしゃるのか、と心躍らせながら明日から行くよ！と約束しました。



「絆」

横浜水道局から以前ボランティアに来ていた人たちとザンジバル水公社（ZAWA）の人たちの写真での再会。嬉しそうに名前を指さずZAWAの職員の人たちがとても印象的で、人とのつながりや絆を感じました。



「国際交流」

ホームステイ先での1枚。どこの国であっても、楽しく感じるのと同じ。子ども達と紙風船で楽しく遊びました。

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立横浜修悠館高等学校 古澤 京子



「キラカラ女子」

よく見ると最後列の生徒はノートを取っていません。(あとで誰かのノートを写すのだとか。)しかし、日本の生徒の写真を見せたらどの男子が格好良いかで盛り上がり、カメラを向けたりやらせをしてくれたり。どの国も女の子の反応は、似ているのかもしれない。



「理学療法士としての取り組み」

ザンジバルのムナジモジャ病院で働く沢谷隊員。子どものリハビリの様子を見学させて戴きました。若くして結婚し、子どもに興味の無い母親もいるそうで、「丁寧に説明して、親に関心を持ってもらうことを課題にしています」とおっしゃっていました。



「モロゴロの市場にて」

タンザニアの内陸部にあるモロゴロは、農作物がとっても豊富。市場には色とりどりの野菜が並んでいました。驚いたのは、どのお店もきれいに野菜が積み上げられていること！タンザニア人は几帳面な一面が出ていると思いました。(崩れないのか心配ですが…)

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立氷鳥沢高等学校 古屋 唯生



「キラカラ中等学校にて」

キラカラ中等学校はニエレレ政権以降、部族の融和策としてタンザニア国内各地から集められた生徒たちが集う、教育水準の高い全寮制女子学校の1つです。私たちはこの学校で、交流授業を企画してきました。メンバー全員それぞれの思いが届き、1つにまとまったからこそ成功したのだと思います。生徒たちの明るい笑顔、歓迎してくれた協力隊員、学校関係者の方々に感謝しています。



「環境意識」

今回の研修は水事業、電力事業、医療施設、学校現場等多くを視察させていただきましたが、その各箇所の問題の共通する顕著な例がこの写真1枚で収まるような気がします。住民の環境意識、各事業での日本人スタッフとの意識の差、医療技術等、途上国はまだまだ支援慣れした体制からの脱却に課題があるようです。「地域住民の手で改善・自立させ良くしていく」「人材を育てる」…いつの日かこのゴミがなくなる時が真の意味での「発展」のような気がするのです。



「マドラサにて」

今回の研修での目玉企画の1つに団員それぞれが別れ、ホームステイ体験がありました。ホストファミリーの協力のもと日本の勤務校の生徒を現地とつなげる企画をしました。前日に綿密な打ち合わせをして、日本で生徒とともに用意した「手作りエコハーブ石鹸」の स्वाヒリ紙芝居・ビラ・石鹸・生徒メッセージを配り、地域のイスラム教育施設（マドラサ）にて、授業は成功し、質問攻めに合うほどの反響、感動しました。

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立神奈川総合産業高等学校 増山 一光



「ホームステイで出会った子どもたち(1)」

ホームステイ先の娘さんとその弟です。



「ホームステイで出会った子どもたち(2)」

ホームステイ先では日本人が珍しいため、子供たちが集まってきました。



「ホームステイで出会った子どもたち(3)」

ホームステイ先で出会った女の子に写真を撮らせてもらいました。

(とてもシャイだったのが印象的です)

教師海外研修 私の3枚

川崎市立橋高等学校 鶴嶋 麦



「ザンジバル入国？」

ザンジバルの港にはパスポートコントロールがあり、入国審査を受けなければならなかった。フェリー乗船前にも、荷物検査やボディチェックがあり、国際線の空港さながらであった。ザンジバルが元は別の国であったということを実感させられた。私たちも入国？手続きに問題があるとのことで、長時間待たされた。



「熱心に説明を聞く研修員」

ZAWA（ザンジバル水公社）を訪問してまず感じたのは、専門家チーム・ZAWA職員、全体がwelcomeな雰囲気であったことだ。この事業がうまくいっている証しであると思った。この日は供給側の施設である水源や配水所を見て回った。車が何台も連なり、全員がJICAのキャップを被ったの視察は圧巻であった。



「無料国際電話」

ザンジバルのプチ観光で見つけた場所である。時間がなくて皆がどんどん先へ行ってしまっているので、日本への電話をかけ損ねた。まあ、ヤシの木に登れるかどうかという別の問題もあるが……。ザンジバルの石畳の街は、細い路地が複雑に入り組んだ迷路である。

教師海外研修 私の3枚

北杜市立甲陵中学・高等学校 木内 美恵



「朝」

6歳の少女はあれやこれやと母親に言われることなく、とても上手にほうきを使って一生懸命に掃除をしています。ほうきは椰子の木の葉で作られています。近所の方が作っている「手作りほうき」です。作り方も見せていただきました。この少女の姿から「身の回りのことは自分でできるように」という母の思いが伝わってきます。



「輝く瞳」

「あなたのことをもっと知りたい」と言って、泊まることになった近所の子供とホームステイ先の子供たち。翌朝、学校へ行く前の様子です。純粋に興味を持って、温かく迎えてくれた真っ直ぐな瞳が印象的です。「日本と一緒に行く」というホームステイ先の少女の願いがいつか叶うといいな。



「ザンジバルでの出会い」

温かく迎えてくれたホストマザー。結婚式のビデオを見せてくれながら、結婚式での踊りを見せてくれています。生活の様子を様々なかたちで教えてくださいました。心から「アサンテサーナ」。こんなにも離れた国にいるのに、とても通じ合えるものがある…とても温かい気持ちになりました。

教師海外研修 私の3枚

神奈川県立高津養護学校 牧 ちさと



「タンザニアの今」

タンザニアに来て驚いたのはとにかく車の多さ！たくさんの日本車が人を乗せて走っていました。中には定員オーバーじゃないの？と気になってしまうくらいたくさんの人を乗せた車も…一方で、脇を歩く人の中には水を入れた大きなバケツ・果物をたくさん入れたかご等々頭に物を乗せて器用に歩いている人もたくさん見かけました。自身の予想をはるかに超えた車の普及と自分の予想通りのアフリカの姿がこの一枚に収まっています。



「ホームステイ先での1コマ 現地風の髪型」

今回の研修の一番の楽しみだったホームステイ。ホストファミリーと過ごした時間はかけがえのないものとなりました。娘さんの髪型がどうなっているのか気になって尋ねたところ、「あなたにもやってあげるわよ」とくしを使って器用に髪の毛を編んでくれました。日本人の髪質はやりづらいとおっしゃっていましたが、20分ほどで完成しました。髪を編むことによって涼しくなるし、広がらないし、髪を洗う習慣があまりないタンザニア人にとって効率的な髪型なんだと知ることができました。

隣では、カメラに興味がある息子さんが私のカメラでたくさんの写真を収めてくれました。



「思いを伝える布カンガと仕立て屋さん」

タンザニアにはメッセージを込めた布：カンガというものがあります。それを思い思いのワンピースやシャツに仕立てておしゃれを楽しんでいる人がたくさんいました。写真の女性は仕立て屋をしている方です。日本は安価で大量に作られた同じような服であふれています。自分のお気に入りの布で自分に似合う服を仕立ててもらい、伝統的な布を大切に着ているタンザニアの人々にうらやましさを感じました。